

巻 頭 言

校長 大瀨 裕司

高校生にとっての進路選択は、これまでに遭遇したことの無い経験になるだろう。しかし、自分の人生について、また自分の将来について、深く真剣に考える又とない重要な時期でもある。だからこそ、備えを怠らず、しっかりと準備することが必要となる。

では、備えとは何で、何を用意すればよいのだろうか。そのことを紹介したのが、この「進路の手引」であり、そこには生徒の皆さんが進路の選択・決定ができるように様々な情報や、詳しいデータが盛り込まれている。コザ高校の生徒はまずこの「手引」を熟読して欲しい。そして、自分の未来のために活用して欲しい。

具体的には、まず3年間の流れを理解し、自分の学年の課題を把握すると良い。

何事も前もって考え、準備する姿勢は大切である。つまり将来を見据え、時間的な展望をもって物事に当たれば、今自分が何をすべきかが明確になる。従って、進路選択の流れを理解し、今なすべき課題を整理し、理解しよう。それには、この「手引」にある“進路決定に向けた三年間の行動目標”が参考になる。

コザ高校の考える進路指導は学年進行にともない、次のように行われる。①1年は「コザ高生になる」。つまり高校生活への適応と、自己理解がテーマである。進路選択の大前提は“自分のことを知る”ことである。自分の興味や適性を主観と客観を比べながら模索することである。②2年では「希望進路を決定する」であり、最終学年に向けての準備がメインとなる。自分が理解した自分の適性をもとに、就職か進学かを選択し、進学するのなら希望する大学や専門学校の情報収集を行うこと。受験形態も重要で、推薦やAO、あるいは一般入試なのか、選択しなければならない内容は多い。さらに、その決定を行うためには、先に挙げた情報収集が重要となるので、この「手引」を参考にすると良い。③3年ではいよいよ「希望進路を実現する」こととなる。これまで積み上げてきたものを更に磨きをかけよう。自分で決定した目標を最後まで諦めず、常に本番を意識して取り組むことを心がけよう。それには自分の先を歩んだ先輩方の合格体験記を通して疑似体験してみると良い。そして自分らしい未来を創造しよう。

進路選択に関する研究は数多い。その中で常に効果的であると報告されているのが啓発的経験や他人からのアドバイスである。未経験のことに対する不安は大きいだろう。人はいかにして進路を選択し、実現してきたのか。成功者の語る言の葉には、例えようのない内容が込められている。自分の進路に関するものだけでなく、出会う全ての人の声に耳を傾けて欲しい。そこには、きっと様々なヒントが隠れているに違いないから。